

地域医療振興協会をご存知ですか？

私は医学部を1981年に卒業後小児科に所属、大学院助教授を経て、2004年1月より大学院発生発達学の水谷教授のご紹介で地域医療振興協会（Japan Association for Development of Community Medicine; JADECOM）に所属しました。当初東京北社会保険病院の立ち上げに副院長として携わり、その後同病院の院長を経て、2009年4月より東京ベイ浦安市川医療センターの管理者兼センター長を拝命、2010年からはJADECOM理事に就任しています。私自身2003年まではJADECOMを知りませんでした。実際に内部で仕事をし、事業内容、現状、方向性を知るにつれ、この組織について同窓の皆様にも広く知っていただくことが、同窓の諸先生方にも重要と愚考するに至り、ここに紹介させていただく次第です。

JADECOMは1986年に自治医科大学の卒業生を中心に、へき地医療に実績のある医師を会員として誕生したへき地医療のための団体で、2009年12月に公益社団法人となっています。現在は内閣府が所轄官庁です。事業概要は「へき地等地域医療に対する意欲と実績を持つ医師を中心に、地域保健医療の確保と質の向上等住民福祉の増進を図り、地域間での医療の不均衡の解消、地域の振興を推進しています。」で、スローガンは「わたしたちは、日本の各地域が元気になるよう、力を合わせて、持てる資源を最大限活用し、保健医療福祉に全力でがんばります。」です。

2011年4月1日現在全国で48施設（病院20、診療所23、老健12（単独施設5、病院との複合施設7））を運営しています。2010年度の診療実績は総病床数4128床、1日の平均入院患者数2780人、1日の平均外来患者数7904人、1日の平均救急車受け入れ数91.4台、介護老人保健施設の総定員数1063人、1日の平均入所者数979人となっています。2011年4月1日現在所属医師は575名、このほか117名の研修医が所属しています。自治医科大学卒業生は現在約30%を占めるにすぎず、出身大学は今や全国の80大学すべてに及んでいます。常勤職員総数は6221名です。また昨年は100を超える自治体から運営受託の相談があり、2011年10月には北海道池田町立病院、2012年4月には三重県立志摩病院の運営に携わることとなっています。

私自身の転機は2004年1月の八丈島での当直です。インフルエンザの流行開始時に島で唯一の小児科医、という状況になりました。外来患者さんが一段落した夕方、ふと考えてしまったのです。「今ここで脳症と診断をするような患者さんが来たら……」自衛隊に頼めばへりで患者さんの搬送はしていただけます。ただし費用は数百万円単位。無論自己負担ではありませんが、その責任を感じゾクツとしてしまいました。都内で診療している際には思いも及ばなかった感覚でした。その後岩手県立千厩病院で診療する機会も頂戴しました。千厩病院で入院加療が必要、と判断されたなお子さんは一関あるいは気仙沼まで片道1時間近くかけて移動しなければなりません。知識として持ってはいたものの、なかなか実感できなかったへき地医療の一端です。

私が立ち上げに関わった東京北社会保険病院には、某大学泌尿器科で助教授であった先生が、再研修を受けておいででした。約1年の研修を経て、その先生は現在東北地方のある診療所で総合医として活





躍されています。へき地医療ではともすると「赤ひげ」が求められます。しかし個人の熱意と犠牲を前提とした「赤ひげ」は長続きしません。燃え尽きてしまいます。そこでJADECOMではシステムとしてへき地医療を支援すべきと考えています。6つある管理型研修病院（横須賀市立うわまち病院、市立伊東病院、東京北社会保険病院、市立奈良病院、市立大村市民病院、横須賀市立市民病院）に勤務する医師をはじめ、JADECOMに所属する医師が交代でへき地支援を行うことで、医師がへき地に行き放しになる状況を回避、へき地勤務医も定期的に研修を受けることができるよう工夫しています。そしてJADECOMでは直接運営している48施設以外の施設であっても全国のへき地施設に対して代診等の支援を行っています。2010年度は延べ6071日の代診等の支援が、北（東）は北海道町立別海病院から西は上対馬病院、南は与那国町立診療所にまで及ぶ80を超える施設で行われました。2011年度からは利尻島病院支援も開始されました。なお宮城県女川町立病院を中心とした災害支援についてはすでに紹介しました。

同窓の先生方の中には新たなキャリアを模索されている先生方も少なくないのではないのでしょうか。実際同窓の先生方で再研修を受け現在JADECOM施設で総合医として第二の医師人生を始められた先生もおおいです。医療ニーズや医療者側の考え方も昨今多様になってきています。そしてJADECOM内の多様な施設では多様な人材を求めています。同窓の先生方ご自身の多様なニーズ、将来設計の中にはJADECOMが提供可能な環境とマッチする場合も少なくないのではないかと想像しています。まだまだ発展途上の未熟な組織ではありますが、将来的なポテンシャルは極めて高いとも感じています。2005年に開始された遠隔画像診断事業はへき地診療所においても放射線専門医の判断を仰げるメリットがありますが、2010年度には19の施設を結び支援件数は年23107件に達しています。海外研修制度としてはオレゴン健康科学大学との交流が2001年より開始され、2007年からは研修プログラムも開始されました。今年度中にはさらにトーマスジェファーソン大学、ハワイ大学への多職種の研修も具体化する予定です。飛行機やヘリコプターを離島の医療支援に活用するプロジェクト（フライングドクターサービス）や看護学校運営（2012年4月開校予定）に加え、JCI（Joint Commission International: 国際病院評価機構）やACGME（The Accreditation Council for Graduate Medical Education）の取得を念頭に置いた病院事業、研修制度も準備しています。同窓の先生方のご興味を引く事業もあるに違いありません。紙媒体としては「月刊地域医学」を発行していますが、是非一度JADECOMのHP（<http://www.jadecom.or.jp/>）ものぞいていただければと思います。そして多少ともご興味の湧いた方は是非ともお気軽に私（j-kohyama@jadecom.or.jp）にまでご連絡ください。全国どこにでも出向いて説明させていただきます。JADECOMは先生方をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。



東京ベイ浦安市川医療センター
管理者兼センター長

神山 潤
(医29・昭56卒)